

# 視察報告

発行:玉城町議会  
2008年10月20日  
TEL.0596-58-8211  
FAX.0596-58-4494  
Eメール.gikai@town.tamaki.lg.jp

## はじめに

玉城町議会として視察研修を実施するに際して、数回にわたる議員懇談会を開き、各議員からの意見聴取を行うと共に、研修目的の明確化とそれを今後の玉城町議会にどのように反映させるかを課題として、六月議会において平成二十年七月九日から七月十一日の間、北海道夕張郡栗山町及び夕張市を視察研修先とし、全員一致で可決しました。

## 視察参加者

議会：小林一則議長 風口尚副議長 山本静一  
高木市郎 東谷富雄 小林豊 中瀬信之  
山口和宏 奥川直人 野口繁 川西元行  
中野勇

行政：辻村修一町長  
事務局：大南 高井 中川

## 視察研修の目的

栗山町は全国初の議会基本条例を制定した町であること、気候風土は違うものの人口も一万四千と玉城町と似かよった町である。

まず、視察先栗山町の隣には財政破綻をした夕張市が有る、夕張は平成一九年三三億円の借金を抱え財政再建団体の指定を受け、平成三六年までの一八年間毎年二〇億円の借金返済をしながら、国の管理下で財政の建て直しを進めて行かなければならない、人口は減り住民の福祉向上はおろか負担増は想像を絶する状況にある。この状況を招いた行政、そしてそのチェックを怠っ

た、議会の現実の姿が夕張市にある。こつした隣の夕張市の状況と、平成一二年地方分権一括法の制定による二元代表制の分権社会をとらまえ、形式的な議会に対する不要論さえある評判の悪い地方議会から脱却するため、議会改革本条例を制定した町である。

地方分権一括法制定後八年よやく危機感が生まれ、全国地方議会で議会改革の必要論が出た。今日、視察先として対照的で代表的な夕張市と栗山町を視察することは、今後の玉城町議会として、最も必要と感じ視察研修先としました。

## 栗山町の視察内容

七月十日午後二時三〇分～午後四時三〇分(二時間)栗山カルチャープラザで行われ、参加団体は市町議員団体八団体(人数八四名)、橋場議長他四名の議員と議会事務局より、栗山町議会基本条例の誕生と展開の資料に基づき説明の後、



栗山カルチャープラザでの研修

各団体からの栗山町議会改革への質問に橋場議長からお答え頂きました。

## 栗山町議会の姿

改革以前は、『民意が届かない』議員は当選したらそれっきり、議会は何をやっているのかわからないなど形式的な議会で議員定数削減や不要論さえある評判の悪い地方議会であった。

また、平成一四年 隣夕張市の異常な財政状況をとりまえ、今まさに改革の時期と認識、目指す議会を橋場議長の力強いリーダーシップで、改革派議員とともに議会の役割を再認識し、本来のありべき議会、あるべき議員像を目指し議会改革が始まりました。それは、議員として逃げ場の無い大変勇気のいる決断の中で議会改革は進む。

その基本は、『二元代表制の真髄と是は是非』これが根底にある、又透明性と住民参加を目指した『討論の広場(開かれた議会)』づくりである、議会は町民の代表機関として地域における『民主主義の発展と町民福祉の向上』のため果たす役割は将来ますます大きくなる、また地方分権による自治体の自主的決定とその責任は大きく、議会として持てる権能を駆使し、自治体事務の立案、決定、執行、評価における論点や争点を広く町民に明らかにする責任と、住民行政、議員間とのそれぞれの自由闊達な討議を通じた『討論の広場』を設けることで、議会として住民にも複合的な活性化が生まれている。また議会議決した内容は議会としても責任を持つことにより一層議員としての責任と資質向上行動力 協力を伴う改革である。

旧態から脱皮できない議員も居たであろうし、改革すら想像できない議員も居たと思われるが、議員一人一人が事実を素直に受け止め、議員定数の削減も当初二十名であったものを平成一五年一八名にして平成一九年には二三名の議員定数とした。

この様に四年間かけて議会改革を進めてきた結果、平成一八年町民に身近な政府としての議会及び議会活動の活性化と充実を目指す、議会改革項目を条例



玉城町議会からの質問

化し、後戻りせず将来に向け継続発展して行く栗山町議会基本条例が制定された。

今現在では『本来の議会運営を遵守し実践することにより、町民に信頼され、存在感のある、豊かな議会を築きたい』を念頭に、議員全員が共通認識の基に丸となり取り組んでいる、議員の意識改革による栗山町議会のみならず、住民から一層の信頼が得られ、それによって答える研鑽努力を惜しまない能動的議員プロ集団が動き出している。

## 視察の結果

研修会後の懇談会では、玉城町議会も栗山町の議会改革前の状況との意見もあり、これは今の全国各地方議会にも言える、したがって栗山町議会に対する地方議会からの関心も高いのである。

視察を終えた今、時勢に追従すべく玉城町議会の将来を、原点に立ち返り考え直す機会となった。

その原点は各議員の『やる気と責任感』そして『是は是非』であり、また『二元代表制』町議会は町長とともに町民から選挙で選ばれた、代表機関であり一四名による合議制の機関である。

町長は独任制の機関として、それぞれが町民の意思を町政に的確に反映させるために競い合い、協力しながら、最良の意思決定を導く共通の使命を持つことにおける議会議員としての責任を果たすことと、議会の合議制（一四名）を議員一人一人が自覚することである。

すなわち「議員である前に議会という町民の代表機関の一員であること」を肝に銘じ、玉城町議会として議会議員として真の町民福祉の向上に責務を果たすことと考えます。

## 夕張市役所視察

夕張市の最多人口は一九六〇年十一万七千人を有したが、二〇〇八年には約九〇％減の一万一千九百四十人となり、高齢化率は全国最高の四三％となる。市役所の玄関のタイルは剥がれたままで道行く人影は無く、家々のトタン屋根は赤錆びてまさに「ゴーストタウン」である。

一九九〇年に最後の炭鉱が閉山し労働者の流出による人口減少、二〇〇六年に産炭地補助金が廃止となり、この年の一時借入総額は最高の三五三



夕張市役所視察

億円となり財政負担に拍車がかかる。  
**再建団体の背景**

1 中田市長（一九七九年～二〇〇三年）は地方公共団体は倒産しないの信条で、炭鉱から観光へ転換するため種々のレジャー施設を進め、多額の地方債・一時借り入れで資金を対応する。

2 閉山となった炭鉱会社の病院、社宅等の買収費が総額五八三億円で更に財政を圧迫する。

3 市長は政商大物政治家との太いパイプがあり、市民も市長の錬金術に過度の期待を持つ。

4 財政が厳しい中、借入金と正確に把握していない市民が署名を集め、撤退するレジャー施設を二億円で二〇〇二年に買収する。

5 二〇〇六年に産炭地補助金が廃止となり借入額は最高の三五三億円で財政窮地に陥る。

6 二〇〇六年六月に再建団体の承認を受け、再建期間は一八年間と炭の道を歩むことになる。

7 全ての住民サービスが低下し、市民税固定資産税等の住民負担が増大し、この影響で転出者が相次ぐこととなる。

今、地方公共団体の一割がいつでも、再建団体に陥る危険性がある状況であり、夕張市を視察し議員のチェック機能を果たすべき重責を痛感した。

## 夕張医療センター視察

夕張市が財政再建団体になった事により、不採算病院であった夕張市立総合病院が公設民営方式による医療体制となり、平成一九年四月一日より「医療法人財団 夕張希望の杜 夕張医療センター」が指定管理者となった。

一七二床あった夕張市立総合病院を一九床の診療所、及び定員四〇名の介護老人保健施設に転換し運営を開始、同法人の理事長であり、医療センター長である村上智彦医師個人の借入金一億二千万円でスタートしたが、一年を経過した時点で借入金を使い果たした。その理由に指定管理者の遅れで医師の赴任が七月以降とずれたこと、又施設が旧設備の為、光熱費及び修繕費が大幅に増えた事が上げられる。しかし本年四月で二五二万円の黒字計上となり、施設経費については行政との話し合いの途中であるが、黒字計上はしたものの職員の給与は他の施設から見れば大幅に低い状況であると佐藤事務局長は語る。



村上智彦医師

今回、村上

医師から直接話を聞くことが出来た。地域医療を守るためには、予防医療を柱に、高齡化している

地域医療に対する住民の意識を変えることが、市の医療費軽減の重要課題と示唆している。

今、日本の医療状態を見ると、医師や看護師等の医療スタッフ不足による、病院の縮小や廃止が連日のようにテレビや新聞で報道されている。

我が町の「町立玉城病院」でもこのような状況にならないように、地域医療の拠点として行政、医師や医療スタッフ、そして住民一人一人が支えて行く必要がある。

## J A夕張の視察

ブランド品の夕張メロは、一九六〇年に十七人で夕張メロ組合を立ち上げ、生産量十二トン、生産高八三万円であった。現在ではメロ農家一五七戸で生産量五千九百トン、生産高三十億円までに推移し、メロ栽培はJ A夕張の販売事業の約九七・三％を占めている。

組合発足当初から試行錯誤を重ね、現在確固たる地位を築いている二つの要因とは。

1 官に頼らず、組合自らの経営努力強い結束そして品質改良。

2 厳格な品質管理  
目利きできる熟練した組合員が検査員。  
検査基準以下は、罰金が課せられる。

品質確認のためナイフを入れ、品質基準内であれば、組合が生産者に弁償する。

庭先販売の禁止、値崩れ防止と品質確保。  
選果場合格品が夕張メロの商標となる。

昭和五十年代に宅配便が普及、タイ干や札幌市民生協などの取引が始まり、これを契機に本州への販路拡大、そして現在選果場には多くの航空用コンテナが積み上げられ、全国各地への発送に備えている。

## 玉城町議会 改革・活性化検討会発足

### 玉城町議会視察研修後の取り組み

1 視察研修レポート作成（七月三十日）

参加議員全員提出（議会事務局にて公開）

2 参加議員による視察反省会（八月五日）

視察研修レポート報告及び反省会  
参加議員全員出席

3 議員懇談会（八月六日）

視察反省会を通じ全議員による議員懇談会を開催、玉城町議会の今後の在り方について検討会を開催し、全員一致で玉城町議会改革を行うことを決定  
住民の皆さまへの視察報告発行「実施決定

## 玉城町議会

### 改革・活性化検討会の活動

活動内容として、八月一九日から十月九日の間に六回の議会改革 活性化検討会を開催した。

全議員の協力 強調のもとに、焦らず慌てず 一歩ずつ着実に推進するため、議員自ら感じる課題の提出を決定した。

以上視察報告と致します。